

第四部 だいよんぶ 第一話 だいいち 同信や同志や縁起 どうし どうし えんぎ

北潟村は、海や川や山などがとてもきれいで、昔の

人のうらやましい所やったんやと。男たちは、毎日漁

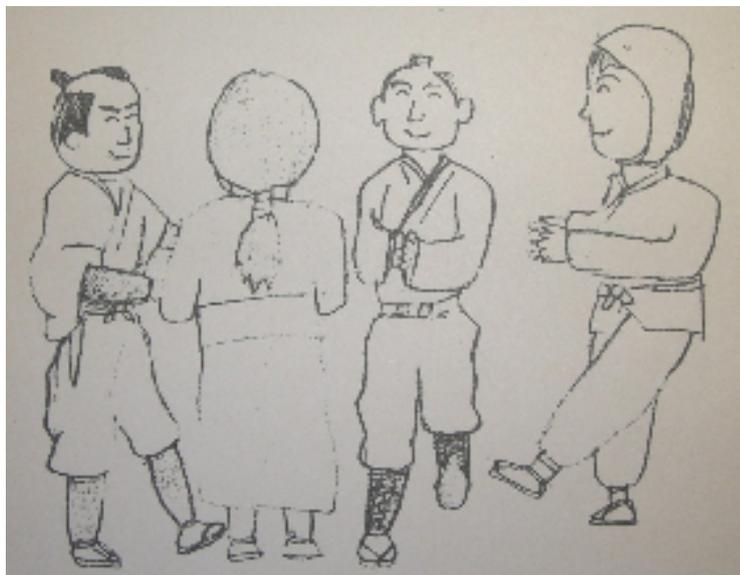
にでかけ、女たちは野のもんやら山のもんをさがして、

平和に暮らしてたんやわ。

今、北潟のどこをほっても昔の人が使っていたものが、

たくさん出てくるんや。そういうところをみても、古くから人が住んでいたことがよおわかるんや。

ずうっと昔の三月、そのころは、すでにりっぱな村づくりができて、泰澄大師っていう人が



このあたりを布教ふきょうしてまわっており、その教えを受け入れてたのがわかるんや。

このおかげで、北潟きたがたに仏像ぶつぞうをつくってお寺てらを建てて安置あんちし、

みんなの健康けんこうを祈いのるところとなったんや。その後ご、たくさんの

ねんげつねんげつがたち、北潟集落きたがたしゅうらくはますますよくなってえ、平安へいあん

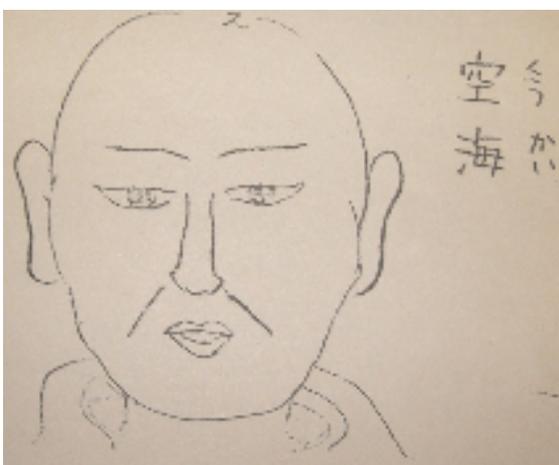
つていう時代じだいのころえらいお坊さんぼうさんの空海くうかいつていう人ひとが、

ぶつきようぶつきようの教えおしをひろひろめに来てき、七ななつの大きな寺てらを建てたたんやと。

安楽寺あんらくじの名僧めいそう志国しこく法院ほういんというえらいお坊ぼうう様さまが、

天皇てんのうの子供こどものむずかしい病びょうき氣きを治なおしたんやと。

治なおしてあげた子供こどもの親おや（天皇てんのう）から”天下てんかごめん”と



いう立派なお駕籠をもらったんやと。

このことから、名僧志国法院というお坊さんの名前は、世間に広まったんやよ。今までのいろんなことで、北潟村は文化の村といわれ、戦に負けた人たちは、他の土地の人たちを旅の衆と呼んで、戦に負けた人たちのことは、北潟の衆と呼んでたんや。

その人たちが、同じ者同志が集まって、踊りと歌を合わせて合唱したのが、今の同信や同志やなんやよ。

” 衆 かいの北潟の衆 かいの

柿のカタビラに 縄の帯しても

縄の帯しても かもて貰わぬ 旅の衆に “